

決算説明会

2018年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2017年11月8日

1. 業績の説明

2. 経営方針と事業戦略

業績の説明

常務執行役員 吉田 勝彦

上半期連結業績ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、純利益 半期として過去最高

(百万円)	2017年3月期 上半期	2018年3月期 上半期	前年同期比 伸び率	2018年3月期上半期	
				8月予想	達成率
売上高	275,133	429,027	+55.9%	436,400	-1.7%
営業利益	18,594	41,951	2.3倍	37,300	+12.5%
経常利益	18,915	42,162	2.2倍	36,800	+14.6%
親会社株主に帰属する 純利益	12,745	34,276	2.7倍	28,700	+19.4%
一株当たり 純利益 (円)	34.01	81.17	2.4倍	67.78	+19.8%

為替レート	17/3期上半期	18/3期上半期	18/3期上半期 8月想定	18/3期1Q	18/3期 2Q 想定
US\$	107.31円	111.20円	108.24円	111.48円	105.00円
ユーロ	120.08円	125.59円	118.27円	121.53円	115.00円
タイバーツ	3.06円	3.28円	3.15円	3.24円	3.06円
人民元	16.28円	16.36円	16.09円	16.18円	16.00円

2Q連結業績ハイライト

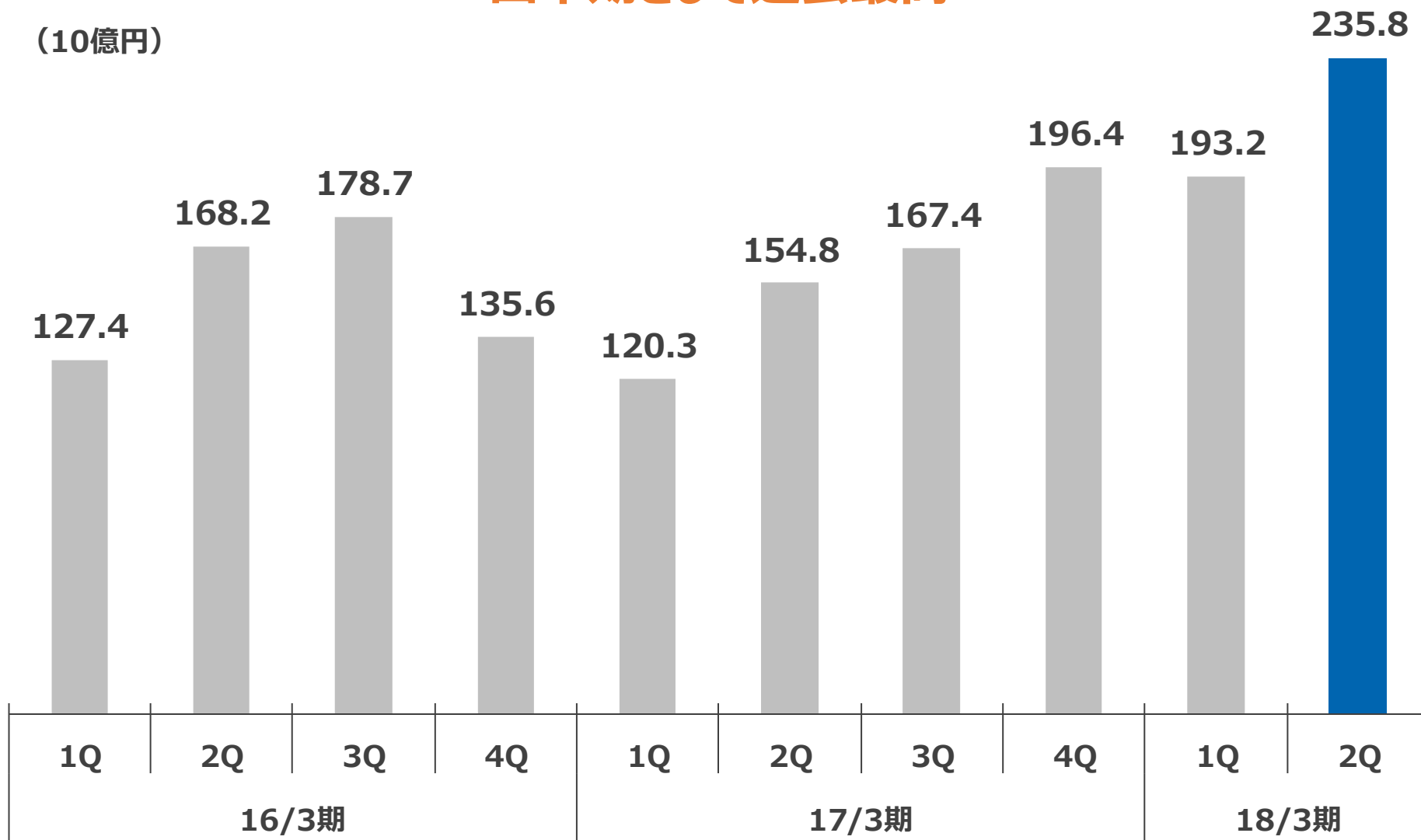
売上高、営業利益、経常利益、純利益
四半期として過去最高

(百万円)	2017年3月期 2Q	2018年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
		1Q	2Q		
売上高	154,844	193,204	235,823	+52.3%	+22.1%
営業利益	11,623	17,062	24,889	2.1倍	+45.9%
経常利益	11,659	17,372	24,789	2.1倍	+42.7%
親会社株主に帰属する 純利益	9,568	14,181	20,095	2.1倍	+41.7%
一株当たり 純利益 (円)	25.52	33.49	47.72	+87.0%	+42.5%

為替レート	17/3期2Q	18/3期1Q	18/3期2Q
US\$	103.50円	111.48円	110.92円
ユーロ	115.00円	121.53円	129.65円
タイバーツ	2.97円	3.24円	3.31円
人民元	15.52円	16.18円	16.53円

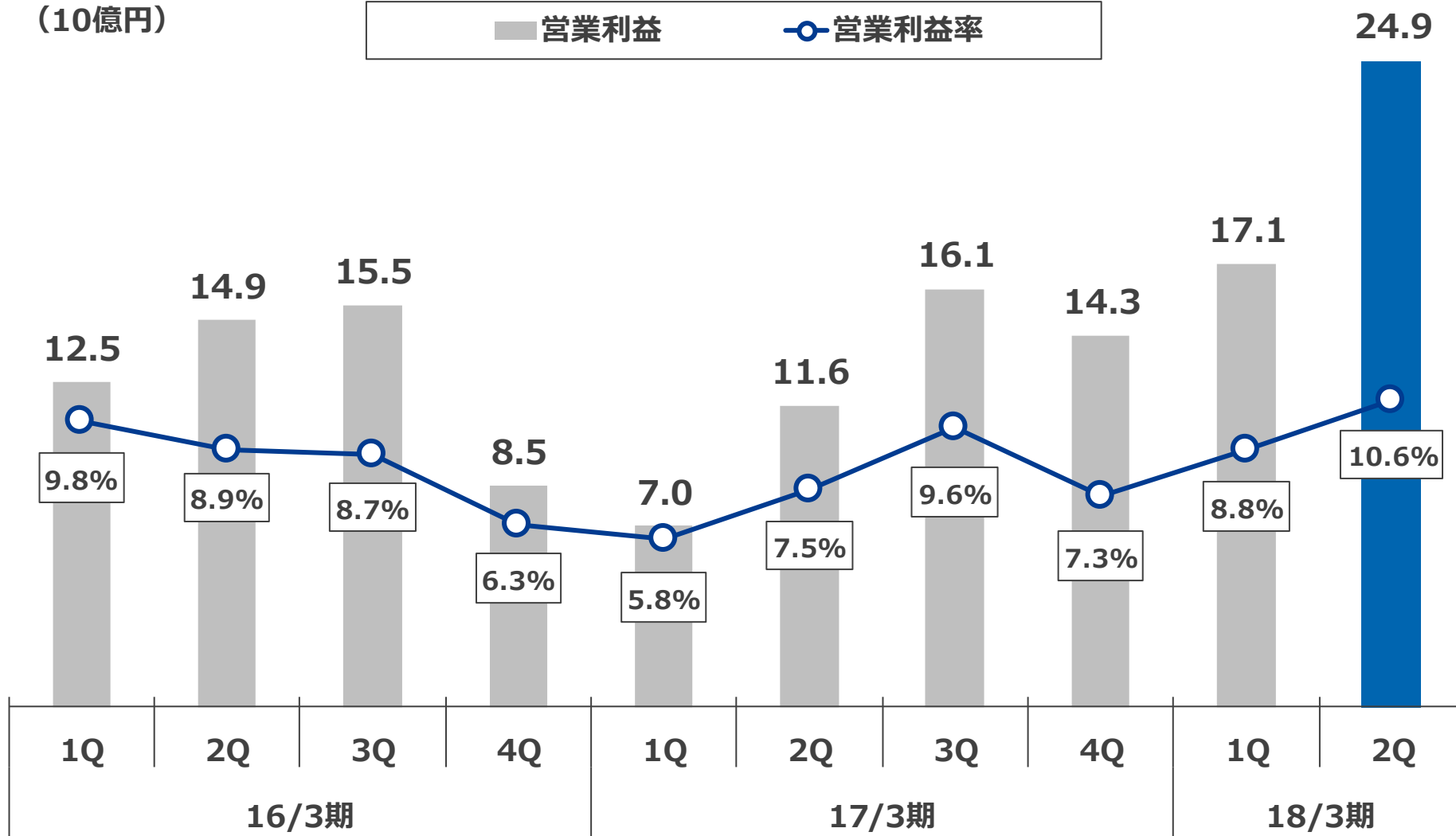
四半期として過去最高

(10億円)

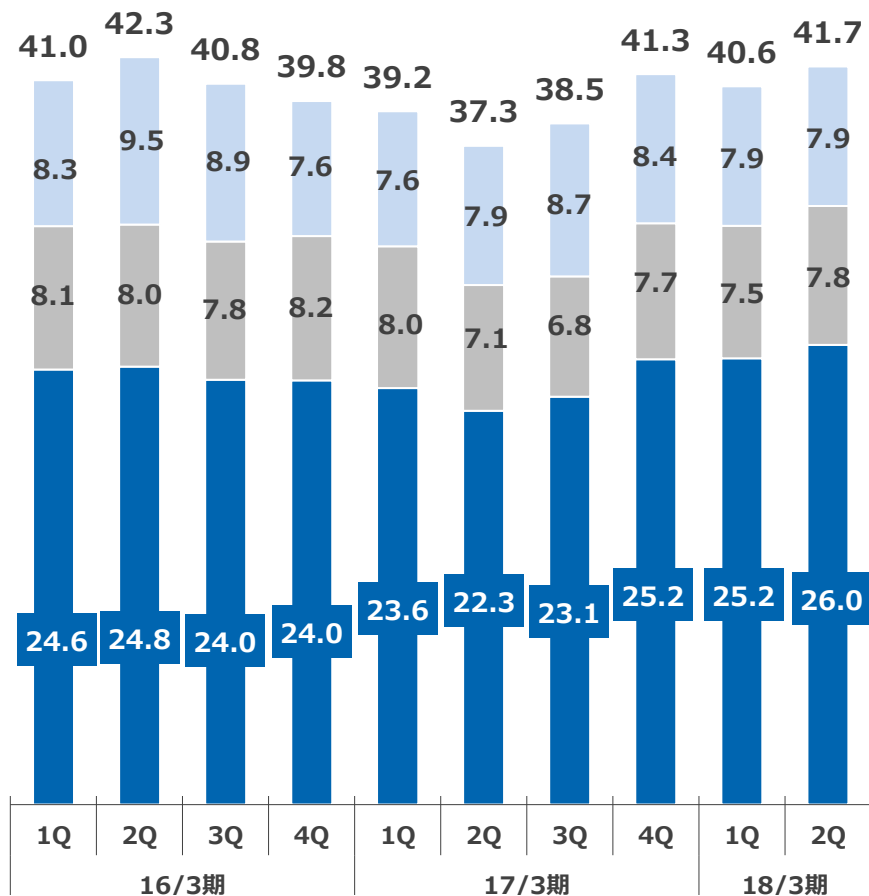
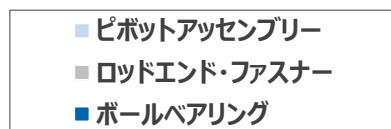


四半期として過去最高、営業利益率10%台を回復

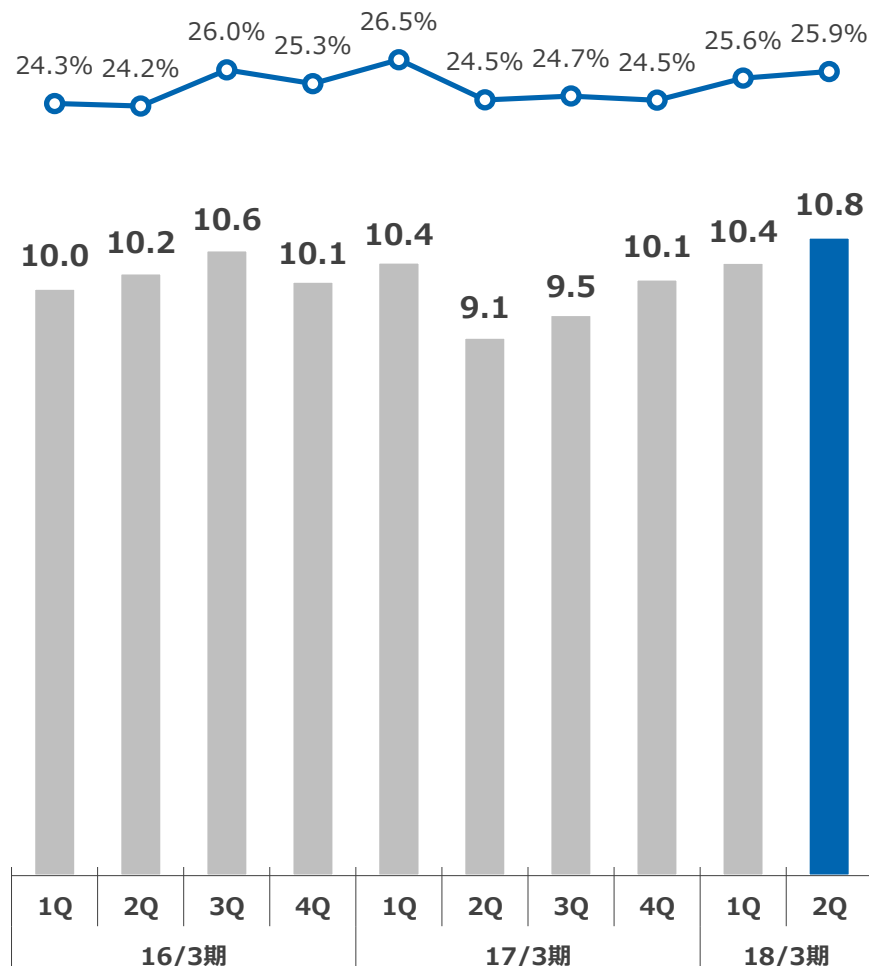
(10億円)



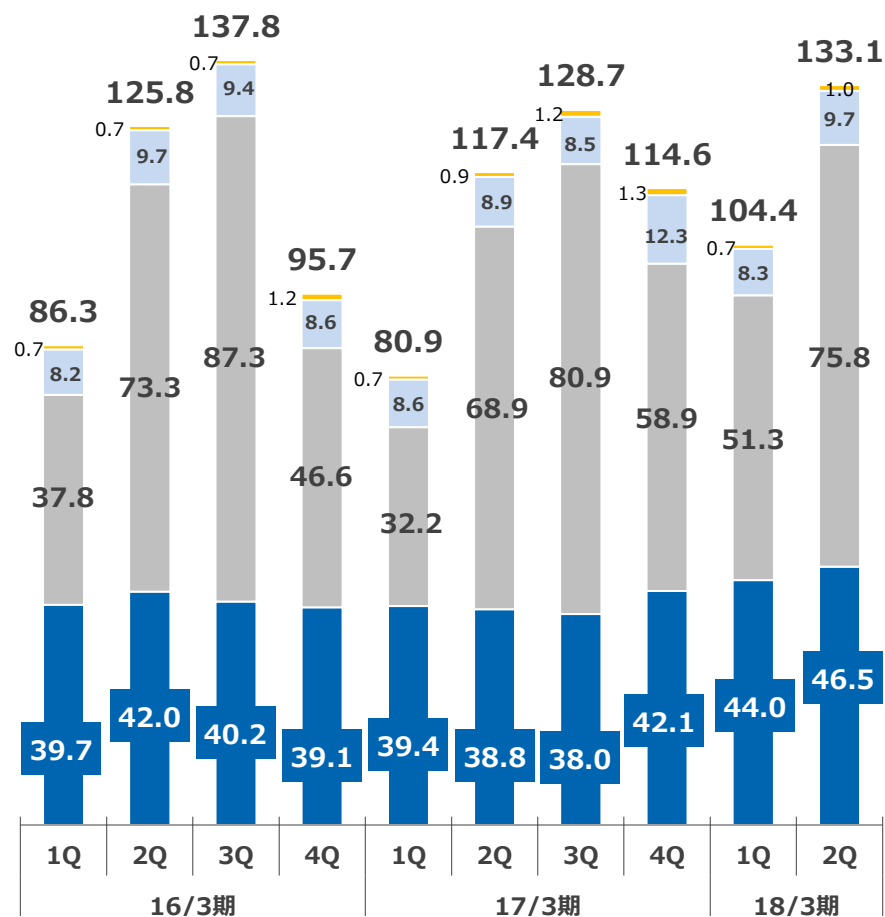
売上高 (10億円)



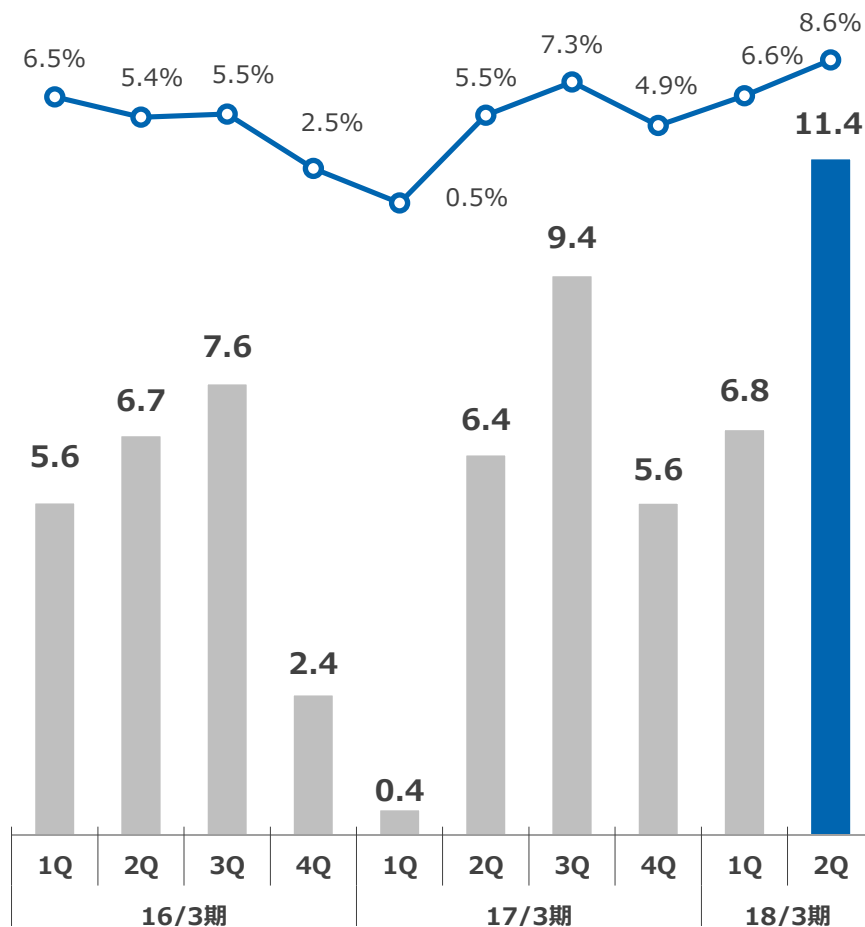
営業利益 (10億円)



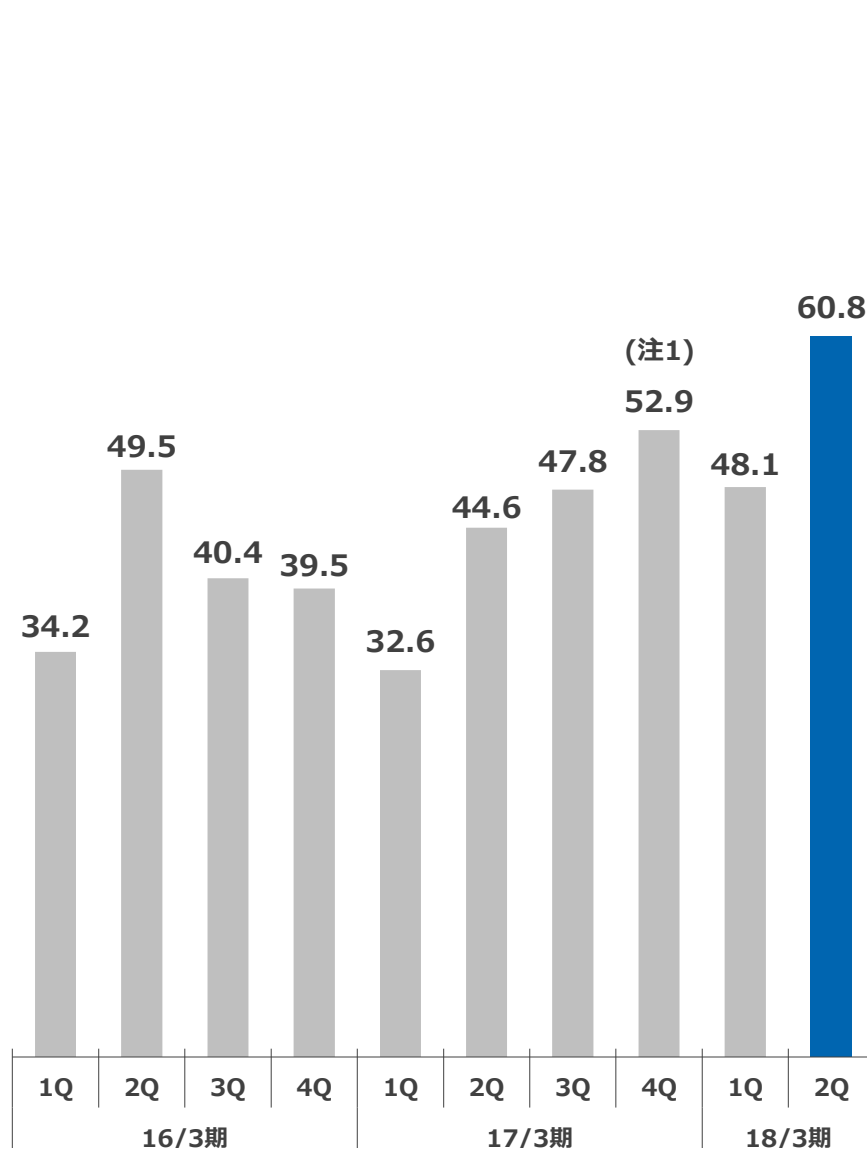
売上高 (10億円)



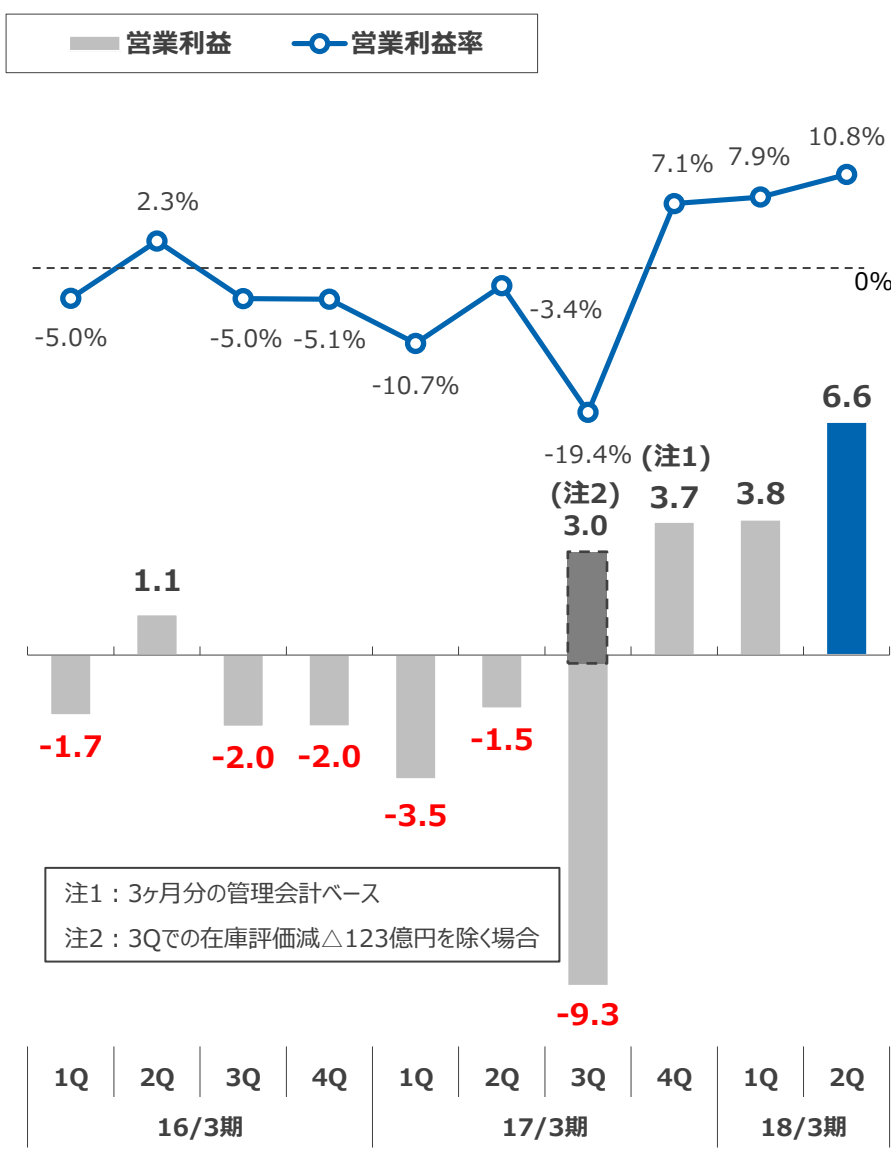
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



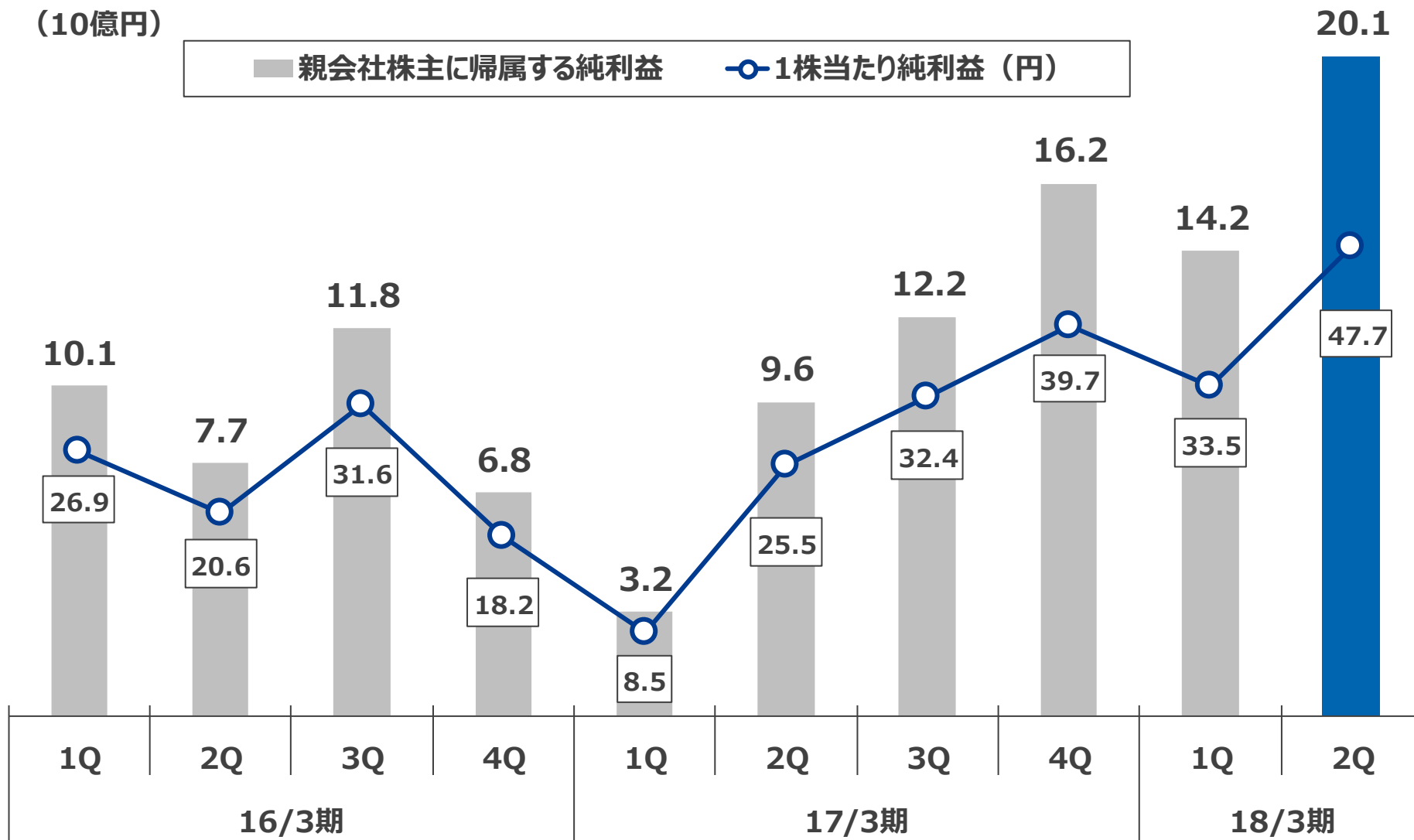
注1：3ヶ月分の管理会計ベース
注2：3Qでの在庫評価減△123億円を除く場合

四半期として過去最高

(10億円)

■ 親会社株主に帰属する純利益

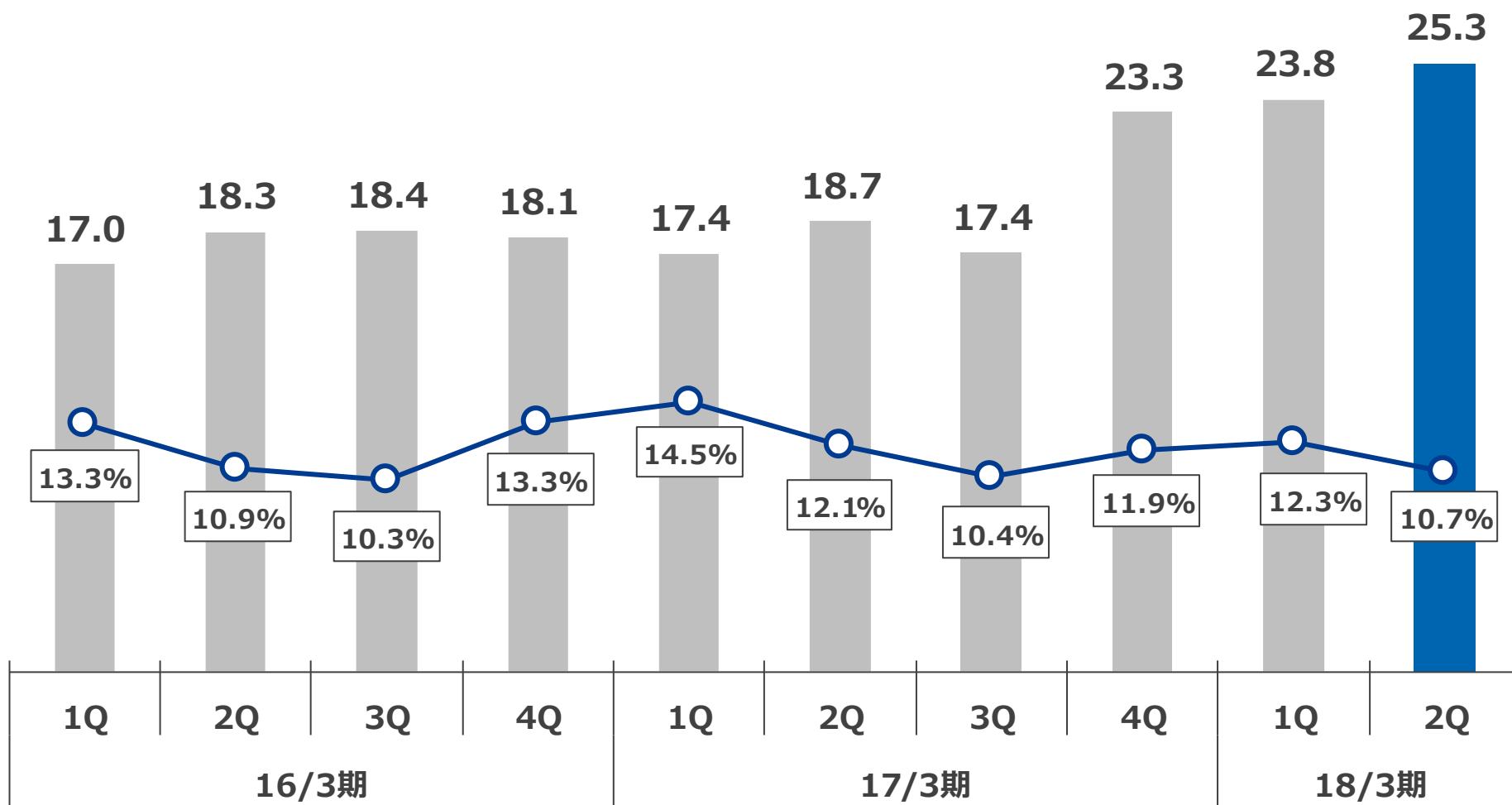
○ 1株当たり純利益 (円)



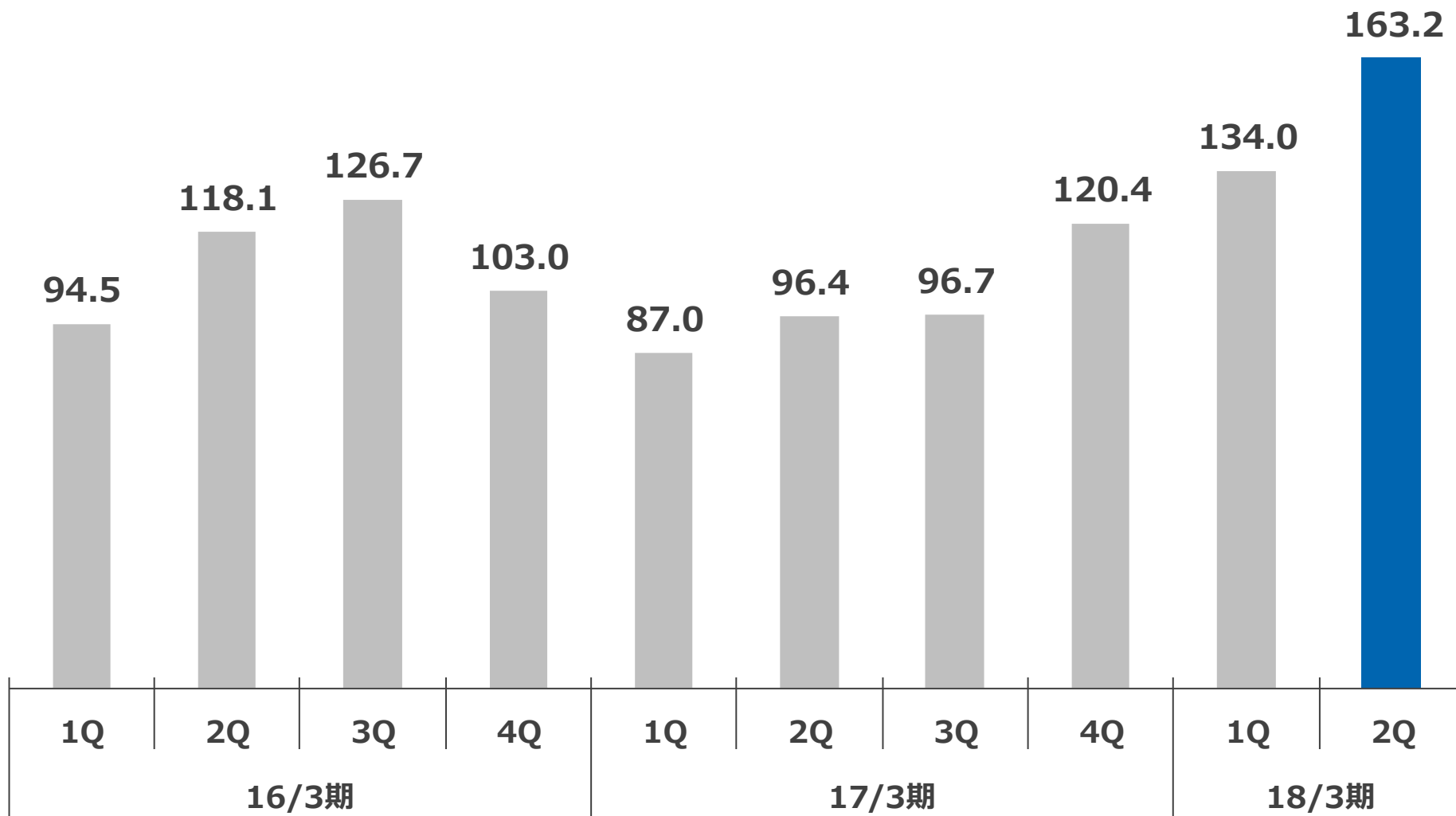
(10億円)

■ 販管費

○ 売上高販管費比率



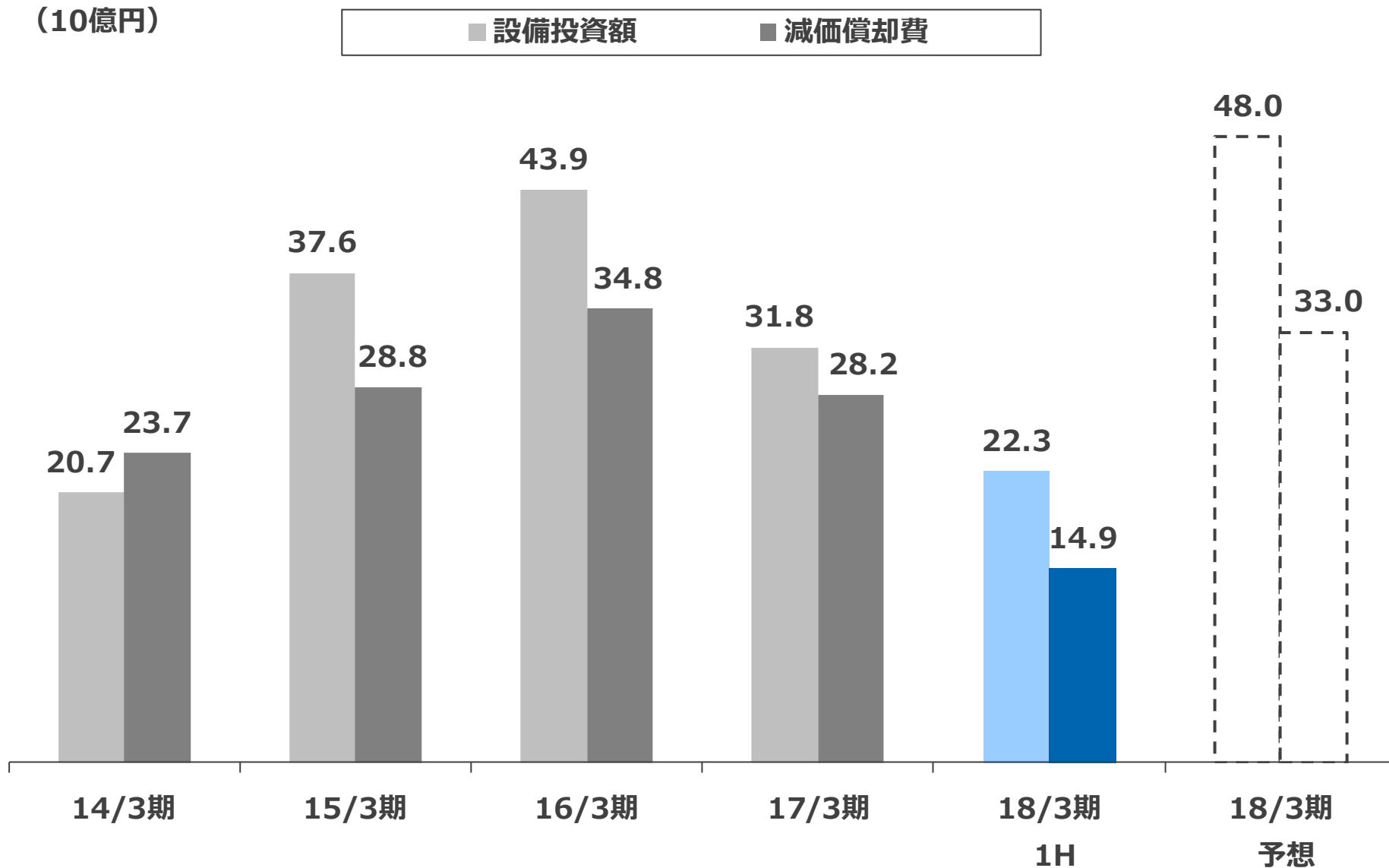
(10億円)



設備投資額・減価償却費

年推移

(10億円)



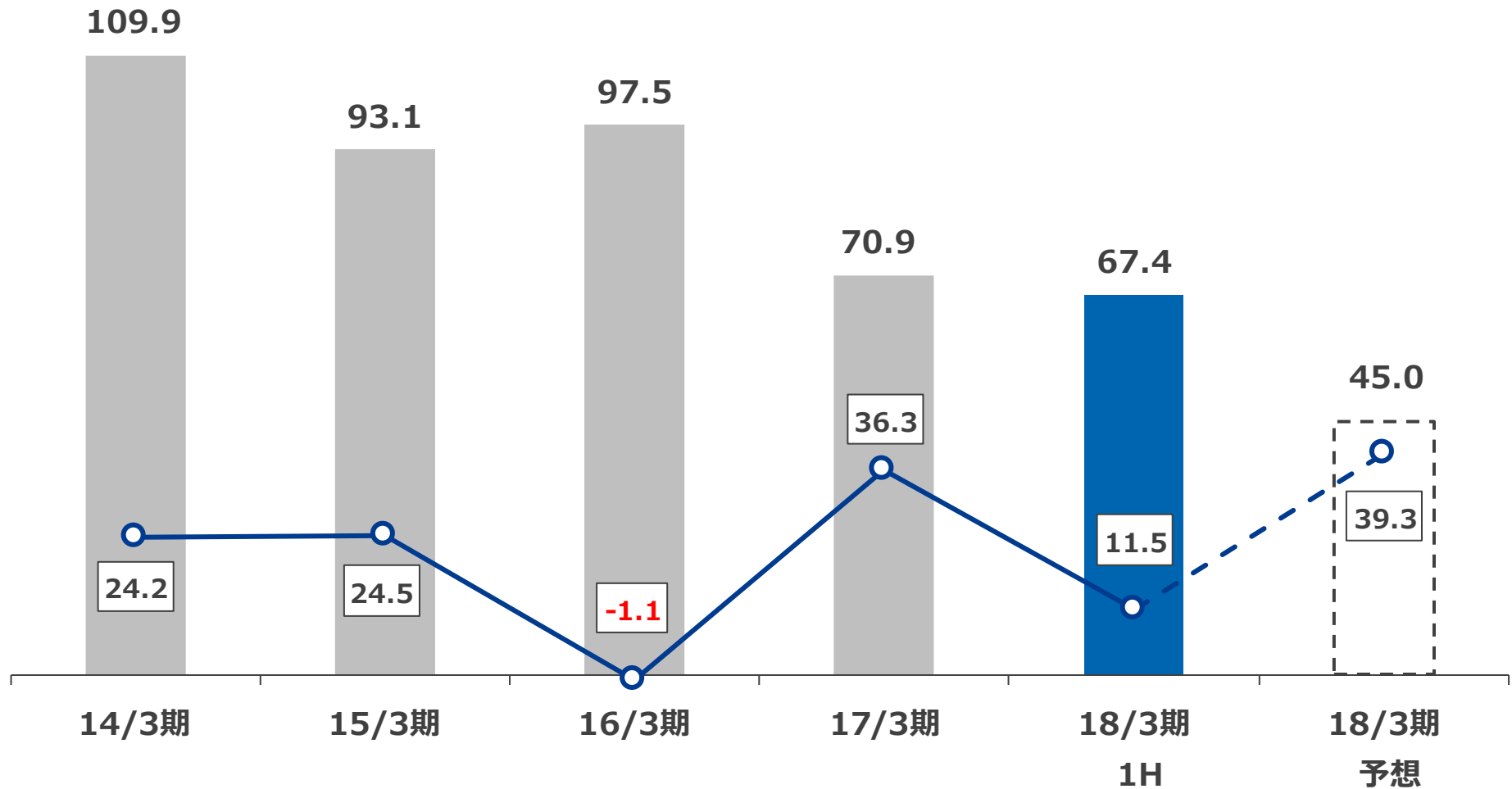
ネット有利子負債とフリーキャッシュフロー

年推移

(10億円)

■ ネット有利子負債

○ フリーキャッシュフロー



1. 2017年2月13日開催の取締役会における決議内容

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得する株式の総数 | 上限 1,200万株 |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 上限 15,000百万円 |
| (4) 取得期間 | 2017年2月14日から9月22日まで |

2. 上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 取得した株式の総数 | 4,658,200株 |
| (2) 株式の取得価額の総額 | 8,351,607,184円 |

売上高、営業利益、経常利益、純利益は すべて過去最高へ

(百万円)	2017年3月期 通期	2018年3月期			
		上半期	下半期 修正予想	通期 修正予想	通期予想 前期比
売上高	638,926	429,027	380,973	810,000	+26.8%
営業利益	49,015	41,951	31,049	73,000	+48.9%
経常利益	48,393	42,162	29,838	72,000	+48.8%
親会社株主に帰属する 純利益	41,146	34,276	22,724	57,000	+38.5%
一株当たり 純利益 (円)	107.33	81.17	54.34	135.51	+26.3%

為替レート	17/3期 通期	18/3期 上半期	18/3期 下半期想定	18/3期 通期想定
US\$	108.76円	111.20円	105.00円	108.10円
ユーロ	119.34円	125.59円	115.00円	120.30円
タイバーツ	3.09円	3.28円	3.06円	3.17円
人民元	16.18円	16.36円	16.00円	16.18円

セグメント別業績予想

(百万円)	2017年3月期 通期	2018年3月期予想			
		上半期 実績	下半期 修正予想	通期 修正予想	前期比
売上高	638,926	429,027	380,973	810,000	+26.8%
機械加工品	156,310	82,374	80,626	163,000	+4.3%
電子機器	441,615	237,453	180,547	418,000	-5.3%
ミツミ事業	40,342	108,834	119,566	228,400	5.7倍
その他	658	365	235	600	-8.8%
営業利益	49,015	41,951	31,049	73,000	+48.9%
機械加工品	39,147	21,223	21,277	42,500	+8.6%
電子機器	21,898	18,260	9,240	27,500	+25.6%
ミツミ事業	2,315	10,351	9,649	20,000	8.6倍
その他	△120	△185	△215	△400	3.3倍
調整額	△14,223	△7,699	△8,901	△16,600	+16.7%

経営方針と事業戦略

Management policy & Business strategy

2017年11月8日

代表取締役 会長兼社長執行役員
(CEO & COO)

貝沼 由久

売上・利益とも半期として過去最高を大きく更新！

上半期のポイント

- ミツミ事業の全製品が収益の底上げに貢献
- LEDバックライトは昨年対比で生産数量が回復
- ボールベアリングの生産性改善が順調に進展

(百万円)	2017年3月期 上半期	2018年3月期 上半期	前年同期比 伸び率	2018年3月期上半期	
				8月予想	達成率
売上高	275,133	429,027	+55.9%	436,400	-1.7%
営業利益	18,594	41,951	2.3倍	37,300	+12.5%
経常利益	18,915	42,162	2.2倍	36,800	+14.6%
親会社株主に帰属する 純利益	12,745	34,276	2.7倍	28,700	+19.4%
一株当たり 純利益 (円)	34.01	81.17	2.4倍	67.78	+19.8%

下半期はスマホ部品の不透明さから保守的に想定

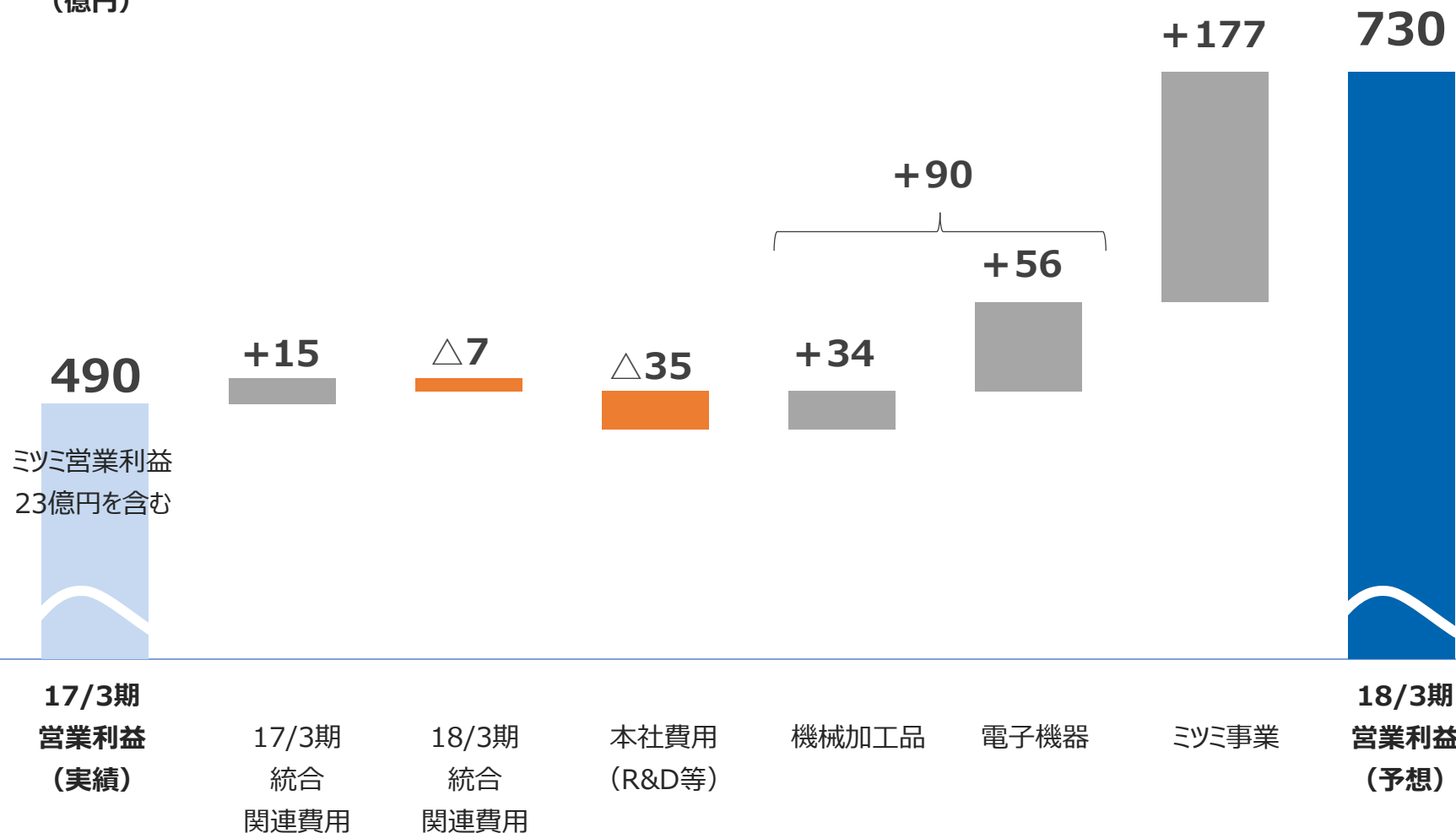
下半期の ポイント

- 機械加工品：ボールベアリングの生産性改善、ファスナー事業は回復
- 電子機器：LEDバックライトを保守的に想定
- ミツミ事業：スマホ部品は保守的に想定も、ゲームの好調に加え全体の生産性改善が収益改善に貢献
- 想定レートは期初計画を据え置き（1ドル=105円）

(百万円)	2017年3月期 通期	2018年3月期			
		上半期	下半期修正予想	通期修正予想	通期予想前期比
売上高	638,926	429,027	380,973	810,000	+ 26.8%
営業利益	49,015	41,951	31,049	73,000	+ 48.9%
経常利益	48,393	42,162	29,838	72,000	+ 48.8%
親会社株主に帰属する 純利益	41,146	34,276	22,724	57,000	+ 38.5%
一株当たり 純利益 (円)	107.33	81.17	54.34	135.51	+ 26.3%

旧ミネベア事業でも力強い増益を確保！

(億円)



今期2億8,500万個体制を確立し、大幅増益へ

●外販需要は引き続き旺盛

- ①自動車、②高級家電、
- ③データセンターが外販需要をけん引

●内販需要も増加

ピボットアッセンブリー向けは漸減と想定も、
モーター事業とのシナジーで増加

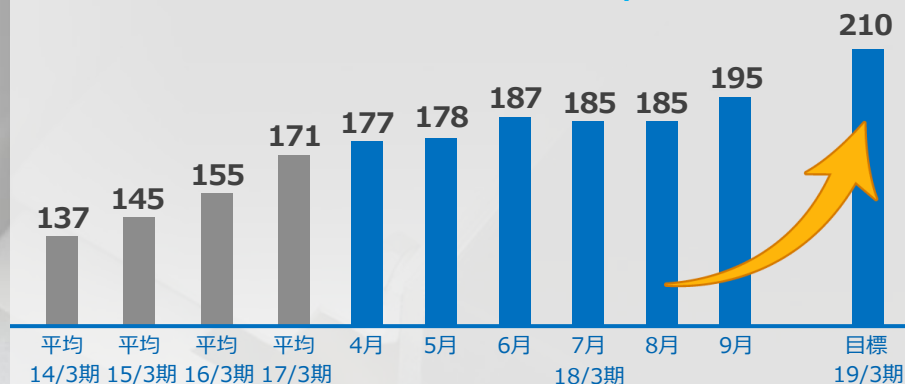
●生産能力拡張で収益に大きく貢献へ

能力増強投資により月産3億個体制へ
(2018年5月予定)

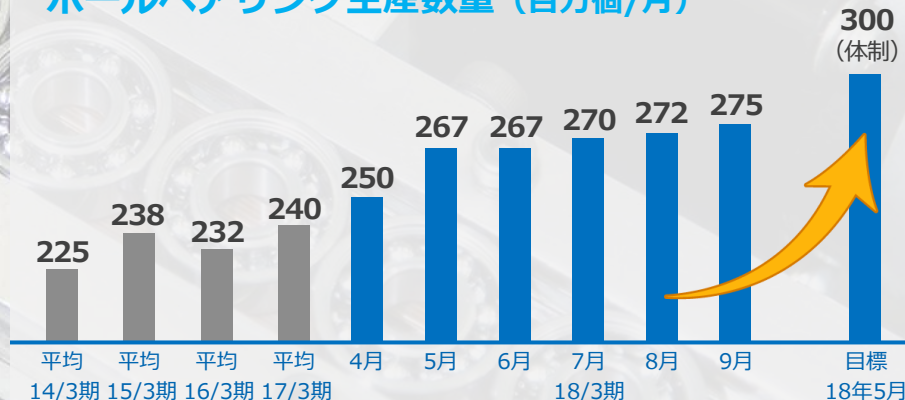
●段取り替えによる費用が減少

工場ごとの生産品目を最適化させることで
段取り替えによる費用が減少し、利益率大幅改善へ
(2018年2月予定)

ボールベアリング外販数量 (百万個/月)



ボールベアリング生産数量 (百万個/月)



LEDバックライトの事業機会は今後も継続！

1. 今期は期初計画並み

- 薄型技術に優位性を持つ当社への需要は堅調に推移
- 加速償却が収益に貢献
- 車載用LEDバックライトも引き続き堅調

2. 来期も収益確保を狙う

- 車載用は、高級車向けを中心にさらなる拡販へ
- 中華圏での大幅な拡販を含め、スマホ向けは来期も堅調

15年間の研究開発を経て「夢のゲージ」が実現

ここがスゴイ：膜応力による反り問題を克服

長年の課題であった「反り問題」を、フィルム膨張係数と膜応力の制御により克服。商品化に向けて大きく前進！

メリット①：従来比約1/10以下の小型化

今まで搭載できなかった小さな部位への搭載も可能

メリット②：従来比500%以上の高感度化

超微細な荷重変化が測定可能

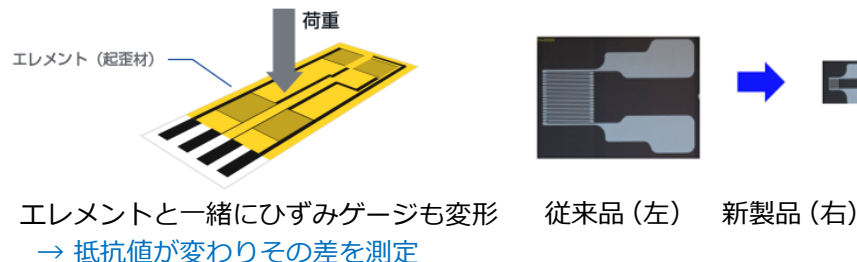
メリット③：部材への直接貼付が可能

貼り付ける部材選定の自由度が高い

メリット④：温度特性に優れる

常時加熱環境でなければ、最高温度160℃まで対応可能。車載の内燃機関でも使用可能。

｜ ひずみゲージの一般的な仕組み ｜ ｜ ひずみゲージ単素子 ｜



主要ターゲット市場



自動車



モバイル・ウェアラブル



ロボティクス

センシングデバイス事業の飛躍的成長へ

数百億円規模の売上を目指す

MINEGE（ミネージュ）は、ミネベアミツミ株式会社の商標登録出願済の商標です（出願番号：2017-135576号）

第三の収益の柱として確立、今後も収益性改善が継続

絶大な収益貢献力

1. OIS/VCMは生産性の改善が進展、ビジネス拡大が継続
2. 機構部品は大手顧客向け増産と内製部品とのシナジーで成長が継続
3. カンボジア工場の活用が始動

顕著な生産性改善

1. ミネベアミツミ七本槍製品
(精密部品、電源、車載部品、半導体) は生産性改善が
順調に進捗し、全体の利益を大きく底上げ
2. さらなる収益改善の余地

気圧センサー

USB Type-C

車載コネクタ

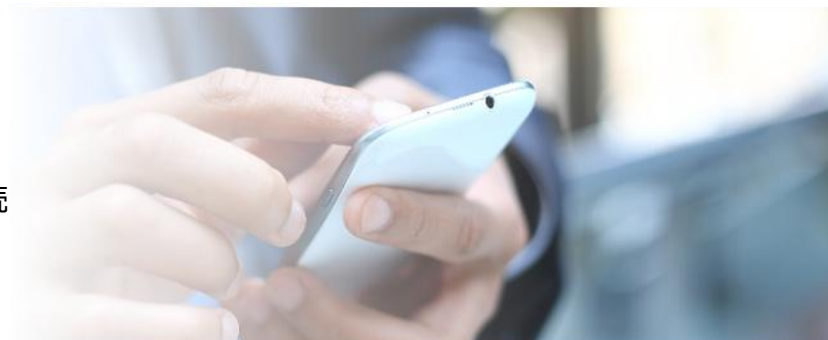
情報機器向け
ACアダプタ

シャークフインタイプ
アンテナ

AC/DC
制御用IC

ポートフォリオ拡充

**新規OEMを含む
多数の開発案件を市場投入予定**



自動車のイノベーションと高級化・高機能化で、新たな事業機会の創出へ ベアリング/モーター/センサー/コネクタ/コイル/アンテナ/通信モジュールなどが伸びる

EV

- ・ウォーターポンプ用モーター
- ・二次電池冷却ファン
- ・充電器冷却ファン
- ・レゾルバ
- ・スマート・アクチュエータ
- ・電池保護モジュール、ほか

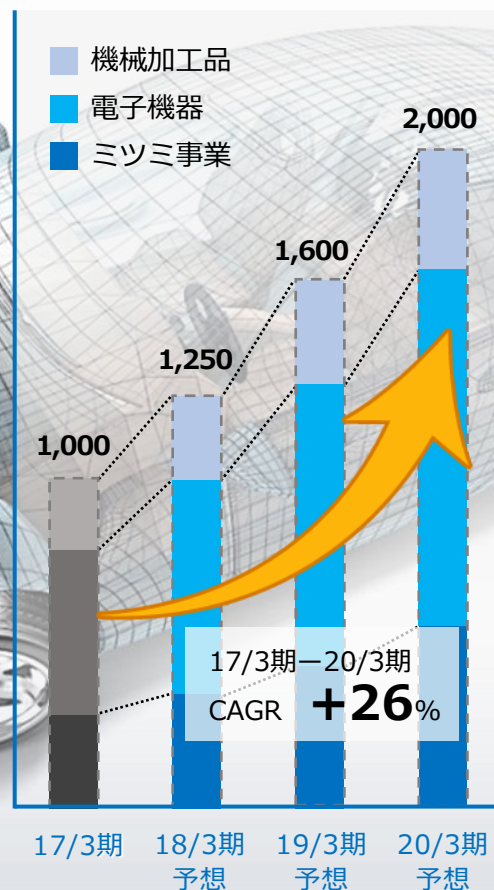
ADAS

- ・LiDAR用ブラシレスDCモーター
- ・ECU冷却ファン
- ・高周波モジュール、ほか

コネクティビティ&インフォテインメント

- ・複合アンテナ
- ・WiFi/BT, GNSS, LTEモジュール
- ・高速伝送コネクタ
- ・E-コックピット
触覚デバイス
ヘッドアップディスプレイ
クラスター用LEDバックライト
曲面カバーガラス、ほか

車載製品売上予想 (億円)



※17/3期のミツミ事業は12カ月分の管理会計ベース

環境性能/省エネ

- ・アクティブグリルシャッター用アクチュエータ
- ・空力制御用モーター・アクチュエータ
- ・熱制御用バルブ
- ・分圧制御用プロフ
- ・温度/湿度センサー
- ・EGR (排気再循環) 用ベアリング
- ・ターボチャージャー用ベアリング
- ・SCR (排出ガス浄化) 用ベアリング、ほか

安全性

- ・LEDヘッドライト用冷却ファン
- ・ヘッドライトアクチュエータ
- ・ABS用ボールベアリング
- ・走行レーン制御用センサー・モーター
- ・ESC (横滑り防止) 用センサー
- ・EPB (電動パーキングブレーキ) 用ベアリング・モーター、ほか

快適性

- ・シート冷却ファン
- ・HVAC (暖房換気空調) 用モーター
- ・リア・ゲート開閉用モーター
- ・シート調整用モーター
- ・アクティブ・サスペンション用ポンプモーター、電動バルブ、ほか

主要成長エリア

5本柱



スマホ



ゲーム機器



機械加工品
(ロボット／航空)



車載

+

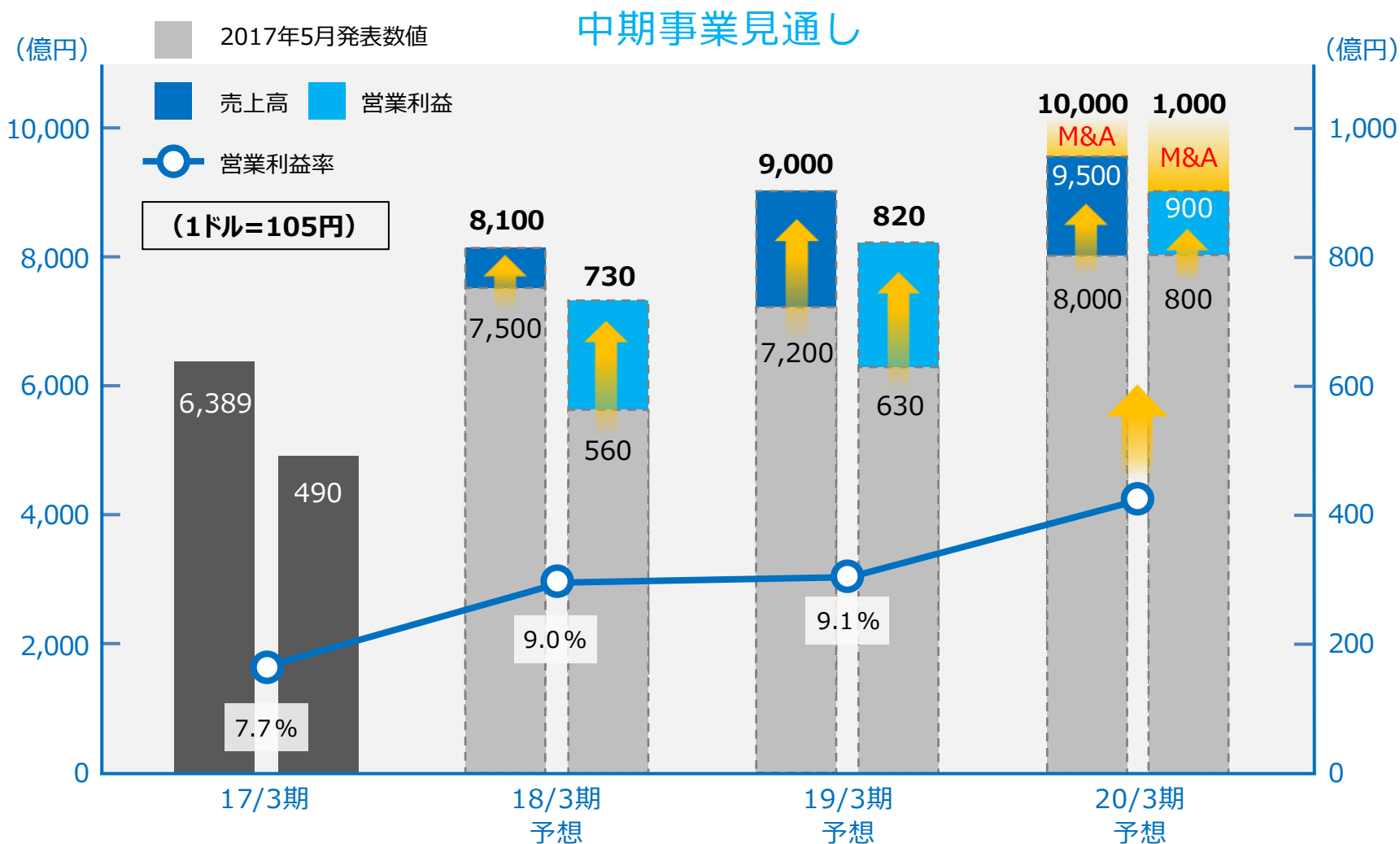
市場投入目前の

新製品群

- ・触覚デバイス
- ・6軸センサ

- ・高感度・高抵抗ひずみゲージ
- ・新型SALIOT、etc.

1年前倒しで売上1兆円 and/or 営業利益1,000億円を達成できる可能性大！



全セグメントで中期目標数値を引き上げ



機械加工品

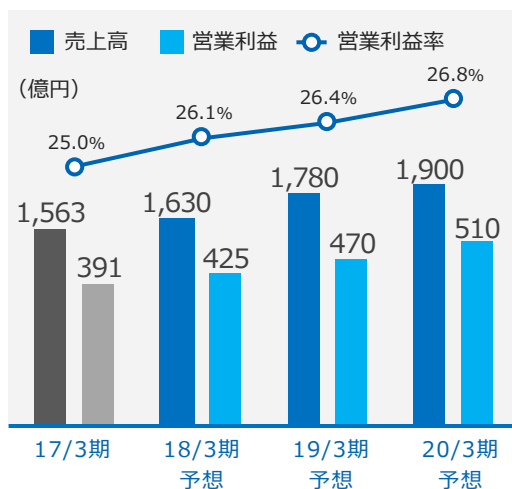
20/3期 営業利益目標

510億円

ボールベアリング月産

3億個

早期達成へ



電子機器

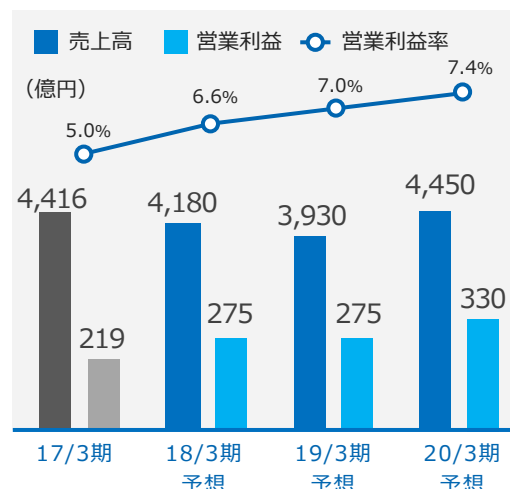
20/3期 営業利益目標

330億円

モーター事業の売上成長率

10%以上

収益の要として貢献



ミツミ事業

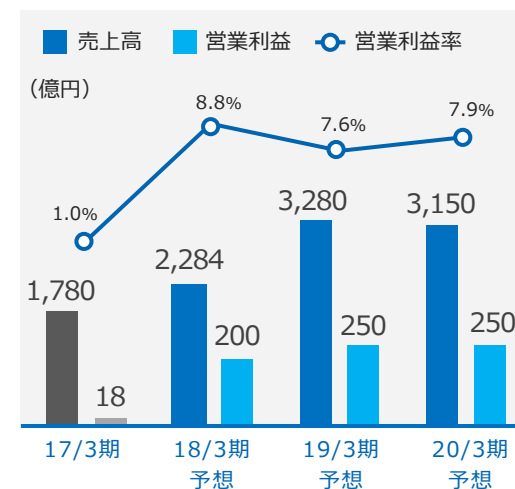
20/3期 営業利益目標

250億円

営業利益の伸び率

+25%

18/3期(予想) vs 20/3期(予想)



(注) 17/3期は12カ月分の管理会計ベース

その他・調整額 = 17/3期 △143億円、18/3期 △170億円、19/3期 △175億円、20/3期 △190億円

米C&A Tool Engineeringの全株式取得

名称	C&A Tool Engineering, Inc.
所在地	米インディアナ州
事業内容	精密機械金属加工 ①医療 ②航空機 ③産業及び燃料システム
保有比率	ミネベアミツミ 51% 日本政策投資銀行 49%
売上高	73百万米ドル（2016年12月期）
シナジー	● トップラインシナジー ・ 航空機／医療分野の製品ポートフォリオ拡充および拡販推進 ・ 付加造形生産技術（3Dプリンティング）および精密機械金属加工技術（ハードメタル）の活用で当社グループ製品のさらなる差別化 C&Aは、付加造形技術によるお客様への技術サポートが米FDA*に最初に認可された企業の一つ ● コストシナジー ・ C&A製造拠点の活用による当社機械加工品（NHBB）の生産能力増強

医療



脊椎用インプラント
※米国食品医薬品局認証

航空機



BLISK
（付加造形技術活用）

産業



ARMATURE ASSEMBLY

*FDA:米国食品医薬品局（Food and Drug Administration）

Mach Aero グループの全株式取得



名称	Mach Aero Bretigny Rectification SAS (MAB)	名称	Mach Aero Components Private Ltd. (MACPL)
所在地	仏パリ郊外	所在地	印ベンガルール
事業内容	航空機向け精密機械加工品の開発・製造・販売	事業内容	航空機向け精密機械加工品の開発・製造・販売
保有比率	NMBフランス 100% ※NMBフランスは当社100%出資子会社	保有比率	NMBフランス、NMB UK共同で100% ※両社とも当社100%出資子会社
売上高	22百万ユーロ（2016年12月期）	売上高	3百万ユーロ（2016年12月期）

シナジー

●トップラインシナジー

- ・航空機・ヘリコプター向け高難度機械加工品（エンジン用途等）の高水準での開発・製造技術を活用し、欧州における拡販を加速
- ・フランスの開発製造拠点を活用することで、主要顧客向け新規開発案件を加速し取引関係を強化
- ・インドの生産拠点を活用し、顧客の現地調達比率の向上に貢献することで新規事業を獲得

●コストシナジー

- ・MAB・MACPLと当社グループの資材購買ルートを相互に活用することによる調達リードタイムの改善と費用の削減

インテックのインド拠点と合わせて
ミネベアミツミのインドでの橋頭保を築く

ロッドエンドベアリング/
ブッシング



スフェリカルベアリング
組込製品



今期業績予想の上方修正を受けて大幅増配！

	17/3期 実績		18/3期 実績/予想	
中間配当	7円/株	→	13円/株	前回予想は10円/株
期末配当	7円/株	→	13 [*] 円/株	前回予想は10円/株
合計	14円/株	→	26 [*] 円/株	

自社株買いを含めた総還元性向は約35%へ^{**}

R&Iによる格付が「Aマイナス」→「A」に格上げ

(格付投資情報センター)

* 18/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で連結配当性向20%程度を目処に決定の予定

** 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得総額) ÷ 当期純利益

決算説明会

ミネベアミツミ株式会社

<http://www.minebeamitsumi.com/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。